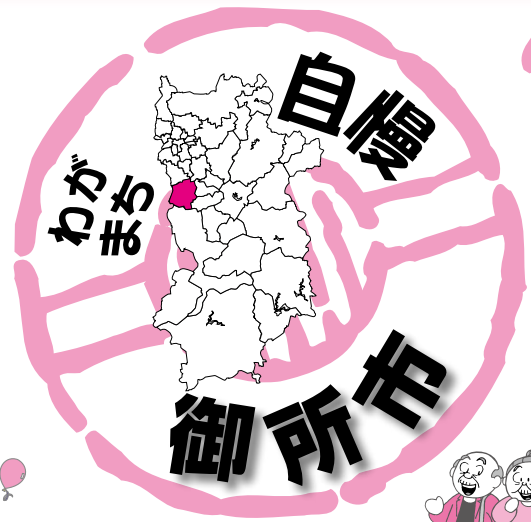


御所市は、奈良県の大和平野の西南部に位置し、西部に金剛山・葛城山が峰を連れ、東南部の丘陵地から平地の広がる緑豊かな自然に囲まれた田園都市です。

市内は一般的に気象災害による被害なども少なく、住みやすい環境となっており、豊かな自然と悠久の歴史に彩られた文化遺産を今に伝える歴史ロマンが漂う緑豊かな生活文化都市でもあります。



## 地名のルーツ

現在「おん(御)・ところ(所)」と書いて「ごせ」と読まれています。どうして御所という地名になったのか、はっきりとした定説はありません。15世紀の文書には「御所郷」の地名が出てくるので、少なくとも戦国時代には市場町のような村ができていたとされています。桑山氏が入府した1600年、御所藩の陣屋が築かれ、江戸時代には陣屋町(城下町)として「御所町」と呼ばれるようになったのでしょう。

— 以下、地名のルーツといわれている説をいくつか紹介します —

- 説1 かもつばしんじや 鴨都波神社の南西に、三室山(孝昭天皇陵)がある。太古の昔、山は神の鎮座する所として信仰され、「御諸山(みもろやま)」と呼ばれた。御諸が「ゴシヨ」と音読され、「ゴセ」に転訛した。
- 説2 葛城山地から流れる葛城川(瀬)により「河瀬(ごせ)」、あるいは、川が五つ流れていたから「五瀬」。
- 説3 古代豪族「巨勢(こせ)氏」に由来。
- 説4 葛上郡の国府があった。孝昭天皇池心宮が御所と呼ばれた

## 歴史街道をゆく—葛城の道と巨勢の道

歴史的に貴重な遺跡や由緒ある寺社仏閣が数多く残っている『葛城の道』と『巨勢の道』。古代史の宝庫、御所の文化遺産一つひとつを自然の中に訪ね歩き、歴史散歩の楽しさを見つけ出してみましょう。

### ● 葛城の道 ●

#### くほんじ 九品寺

九品寺は駒形大重神社のすぐ南にあり、聖武天皇の詔り(みことのり)によって奈良時代の僧、行基が開基したお寺。本尊の木造阿弥陀如来坐像は、国の重要文化財に指定されており、檀信徒の心のより所となっています。



#### ひとことぬしじんじや 一言主神社

願いを一言だけ聞いてくれる「いちごんさん」として地元の人から親しまれている一言主神社。祭神は、古事記や日本書紀の中に見える事代主命です。



#### なかむらてい 中村邸

中村邸は御所市内で最も古い建物で、中世、吐田城主だった吐田越前守の子孫にあたる中村正勝が慶長期(1596~1615)に建てたと推定されています。江戸初期の家の造りを今に伝えるこの建築物は、全国的にみても歴史的価値の高いもので、国の重要文化財にも指定されています。



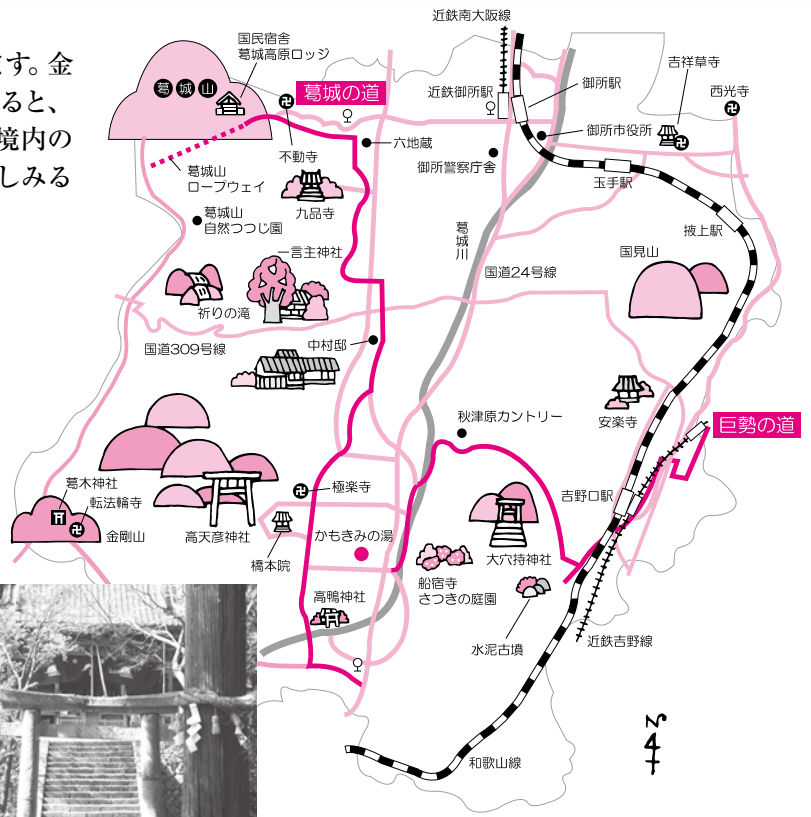
はしもといん  
橋本院

金剛山中腹の高台に、宝窟山高天寺橋本院があります。金剛山中腹の、広々とした空間の台地にある寺院を訪れると、時が止まったような感じを覚えます。静寂に包まれた境内の椿としたれ桜は、寺院のたたずまいに溶け込み、心にしみる風情があります。



たかかもじんじゃ  
高鴨神社

御所市内に「かも」と名のつく地名は多く、北は鴨都波神社のある旧御所町から南は鴨神の集落までの広い範囲に分布しています。この鴨神の集落にある高鴨神社は、京都の上賀茂神社、下鴨神社の本家にあたる歴史ある神社です。本殿は三間社流造りで、国の重要文化財に指定されています。



● 巨勢の道 ●



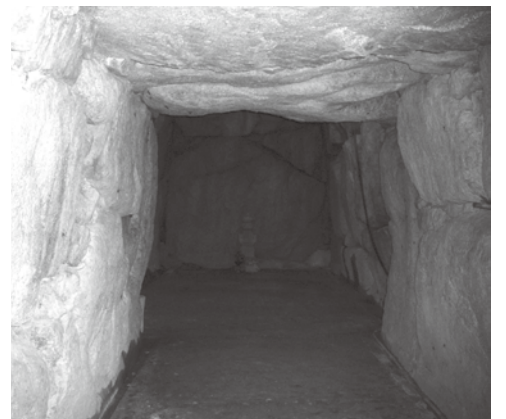
あんらくじ  
安楽寺

御所市随一といわれる塔婆をもつ安楽寺。この塔婆は三重の塔の初層だけが残っているもので、上には宝形の屋根をあげています。建築様式から寺は鎌倉時代頃に建てられたと推定されますが、はっきりとした建立の年代はわかっていません。



せんりゅうじ  
船宿寺

千年の法灯をずっと守り続けている真言宗の名刹、船宿寺。広い境内は四季折々の花で彩られ、とりわけ数百株に及ぶというサツキが満開の時期はみごとです。



みどろこふん  
水泥古墳

大和盆地から吉野川流域に通じる道はいくつかありますが、なかでも重阪峠を越す道、いわゆる巨勢道は万葉集にもその名が登場する街道で古くからよく知られています。この巨勢道に面した丘陵の東斜面に横穴式石室の水泥古墳があります。この古墳は蓮華文の彫刻がほどこされていることで有名です。

歩き疲れたら・・・「かもきみの湯」

奈良県南部を代表する「かもきみの湯」は、大浴場に加えて露天風呂と家族風呂を完備し、お子さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで誰でも存分に楽しめます。長い道りを散策した後は、「かもきみの湯」で疲れを癒してみてもは。

きつしょうそうじ

吉祥草寺最大のお祭り「大とんど法要」 2009年1月14日(水)

毎年の恒例行事、吉祥草寺最大のお祭り「大とんど法要」が行われます。無実の罪で伊豆に流されていた役行者が、大宝元年(701)正月に茅原の里に無事帰還。里人がこれを喜び、大松明を焚いて祝ったのが始まりといわれています。このお祭りは、国の無形民族文化財に指定されています。天に向かって燃え上がる勇壮な炎、言葉を忘れて見とれる大勢の参拝者。一千三百年の伝統を誇る「とんど祭り」です。

